

古典女踊り 本花風 むとっはなふう

「本花風節（むとっはなふう ぶし）」

三重城に登て 打ち招く扇（みーぐしくにぬぶてい うちまにく おうじ）
またもめぐり来て 結ぶ御縁（またん みぐいちてい むすぶ ぐいん）

【訳】

去りゆくあの人を見送ろうと三重城の丘に登り、招くように扇を仰ぎました
いつかまた戻ってきて ふたたびめぐり合えるようにとの願いをこめました

「述懐節（しゅっくゑーぶし）」

里前船送い 戻る道しがら（さとうめふに うくてい むどうる みちすいがら）
降らん夏ぐれに 我袖ゆぬらち（ふらぬ なついぐりに わすでいぬらち）

【訳】

あの人のお船を見送って、帰る道すがら
降りもしない夏の夕立ちが、わたしの袖を濡らしてしまうのです

